

# あびこ型「地産地消」推進協議会 会報

2009年 1月 冬 19号

発行 あびこ型「地産地消」推進協議会 会長 遠藤 織太郎  
〒270-1155 我孫子市我孫子新田22-4 あびこ農産物直売所内  
Tel 04-7128-7770 FAX 04-7128-7771  
URL:<http://www15.plala.or.jp/chisan/>  
Mail:abikochisanchisyokyo@sky.plala.or.jp

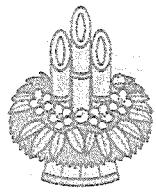
あびこ型「地産地消」推進協議会は あびこ産農産物による  
「地産地消」の推進、食育等の普及活動をしています



新年餅つき大会 渡邊副市長と、お餅つき 9 ページをご覧ください

## 目 次

新年の挨拶・星野市長 遠藤会長	1・2	新年餅つき大会	9・10
とうかつ千産千消ネットワーク学習会	3・4	生産者基準評価委員会 Q&A	11
援農ボランティア養成講座の感想	5・6	対外イベントの紹介	12
新規就農講座を開催	7・8	お知らせ・編集後記	13



## 我孫子市長挨拶

市長 星野 順一郎

新春の候、会員の皆様方におかれましては、ますます御健勝のことと、お喜び申し上げます。

さて、市では基本構想で、「生産者と消費者がお互いに信頼することで、品質と安全性の高い地元農産物が地元を中心に消費される農業の確立をめざす」としています。

昨今、全国的に食品の賞味期限や産地等の偽装、農産物の残留農薬、加工食品への農薬の混入等、食の安全性に対する信頼を裏切る事件が後を絶ちません。

そのような中、あびこ型「地産地消」推進協議会の会員の皆様方は、援農ボランティアとして農業者の助けとなり、また、8つの小中学校に地元野菜を納品する搬送ボランティアを担う等、様々な活動を通じて生産者と消費者をつなぎ、農業を支援されています。まさに、基本構想で目指している地産地消の推進に大きく貢献していただいているものと感謝しております。

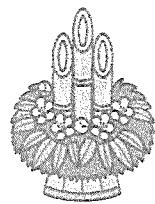
生産者と市民が信頼しあいながら、地元で収穫された旬の農産物が地元で消費されることで、農業が栄え、自然環境と景観も保全されます。そのためにはあびこ型「地産地消」推進協議会、農家、行政の協力と連携は不可欠であると考えています。

今後とも様々な形での協力・連携をお願いすると共に、あびこ型「地産地消」推進協議会の更なる発展ならびに会員の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



2009年1月 あびこ農産物直売所

# 新年を迎えて



あびこ型「地産地消」推進協議会会長 遠藤 織太郎

新年明けましておめでとうございます。

昨年は100年に一度の経済危機とか食の安全・安心が揺らぎ心配と不安が先にたつ暗い年越しとなりましたが、新春を迎え皆様には今年こそはの思いで、「希望」と「抱負」を心に期されていることと思います。

当協議会は発足以来6年目を迎えます。

年頭に当たり、初心にかえり 皆様と共に我孫子市における安全・安心、新鮮な農産物の「地産地消」を しっかりと推進し、「豊かで住みよい農あるまちづくり」の実現に向け、確実に前進する年になればと心から願っております。

それには、我孫子市における「地産地消」の象徴となる本格的農業拠点施設の開設が予定通り進むことが強く期待されます。

当協議会は本年も我孫子市行政並びに農産物出荷組合、公社、JAふたば農協との連携・協働を強化します。

今ある「あびこ農産物直売所」(アンテナショップ)の確かな賑わいづくりへの貢献、また援農ボランティアの実践、学校給食への地元農産物の供給拡大、生消の交流とか食農講座や新規就農講座の展開等を進めることにより、今年も「食」と「農」の再生を基本に充実した、あびこ型「地産地消」の発展・拡充を実現したいと願っています。

何卒 皆様の一層のご理解と ご協力を賜りますよう心からお願ひ申し上げます。



2009年1月 新年餅つき大会

# とうかつ千産千消ネットワーク学習会

開催日:平成20年10月16日(木)

主催:とうかつ千産千消ネットワーク  
千葉県東葛飾農林振興センター

「(株)アグリガイアシステム 循環型飼料化センター」の見学をしました。

朝8時、柏駅西口のホテル前に40人ほどの見学者が集まり、バスで佐倉市にある

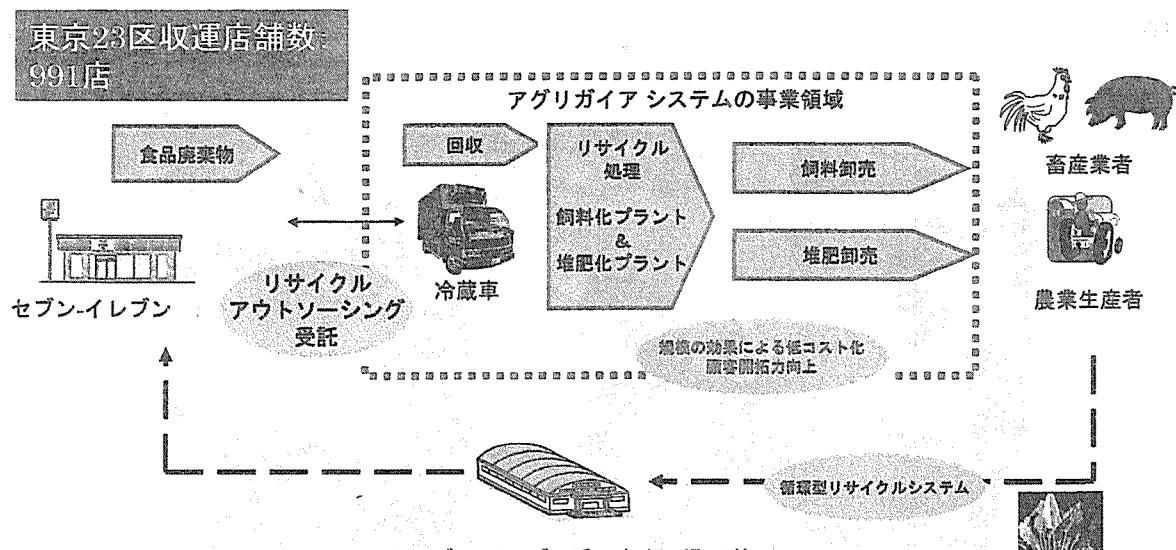


「循環型飼料化センター」に行きました。ここに首都圏のコンビニ、スーパー・マーケットの販売期限切れの、おにぎり、お弁当や佐倉市内の小中学校から出る給食の残渣などの食品廃棄物が冷蔵車で集まります。そして「手選別」と「機械選別」で「100%分別」がされ、家畜用の飼料にリサイクルします。

大量の、おにぎり、お弁当が分別処理されるのを見た見学者から「もったいない」の声が出ました。食品廃棄物は分別処理工程で、「高脂肪高タンパク飼料:トリ用」、「低脂肪低タンパク飼料:豚用」、「リキッド(液状)飼料:豚用」などに再生します。「食品リサイクル法」に基づき、かつ処理工程は衛生的で、安全、安心な環境保全型施設になっています。食品廃棄物は有料で引き取ります。現在は処理能力の1/3の稼働率で、採算は赤字だそうですが、今後、設備の安全性を確保しながら、徐々に設備稼働率を上げてゆくそうです。(下図はパンフレットより転載)

## 食品リサイクルシステム例

### (I) セブン-イレブンとの取組み



### <見学の感想>

日本の食料自給率は約40%。かたや日本で捨てられている食料は年間約2200万トン。これは世界の食料支援の総量とほぼ同じ量だそうです。これを解消するため、補助金40億円を投入した、このような大規模なモデル処理施設が必要なのは驚きでした。農業生産者、食品製造者、消費者、それぞれの立場から見た、「もったいない」の意味を考える、良い見学・学習になりました。

次に、習志野市実糸の、体験型農園「さくら農園みらい塾」を見学しました。

こここの体験型農園は、40年の農業暦を持つ園主の桜井勝子さんが、利用者に各種野菜の栽培の手ほどきをする、「農園のカルチャースクール」です。

### —「さくら農園みらい塾」のパンフレット内容を転載します—

ここで、皆さんはプロの栽培技術を習得し、育てた野菜は「すべてお持ち帰り」出来ます。そのため、決められた講習会に来ていただき、種類や栽培方法などは園主が指導致します。このような農園のスタイルは、他にありません。しかし東京都練馬区をはじめとした都市部では増えていますが、大変人気があり、抽選をしないと受講できないほどです。なぜなら

- ① 安心して新鮮な野菜を自分で作れる。
  - ② 家族全員で土にふれあう遊びができる。
  - ③ 農具・農業資材は農園に用意されていて身一つで体験できる。種子や苗も園主が準備してくれる。
  - ④ 支払った代金以上の収入量を得られる。
- などです。—

利用者は1区画30m<sup>2</sup>の畑を利用する、

年間会員契約を結び会費を払います。

利用できる畑は、61区画あります。

園主は、作付けから収穫までを計画、指導し野菜の収穫までの面倒をみます。

利用者は桜井さんの野菜作り40年の腕と面倒見の良い人柄にひかれ、遠方から電車で来る方もいます。ロッカーも備えてあるので、利用者はここで作業着に着替え農作業をします。それで利用者は手ぶらで農園に通うことができます。

肥料は自家製堆肥と配合肥料を使用しているそうです。

野菜には自然農薬・元氣丸(I液:木酢液にニンニク1/3量を漬けた液。II液:焼酎に唐辛子1/5量を漬けた液)などを調合して、ときおり散布します。

野菜の害虫は手で捕るよう、利用者を指導しているそうです。化学農薬はやむをえないときしか使用しないそうです。軌道に乗った今では、利用者との毎日の交流が何よりも楽しみだと語ってくれました。



### <見学の感想>

消費者と生産者をつなぐ、体験型農園「さくら農園みらい塾」を立ち上げ、利用者に野菜作りを教え、喜ばれていることは素晴らしいことです。

気さくな農家の主婦、桜井さんの明るく元気な話しぶりに、見学者全員が引き込まれました。楽しく野菜作りをするという内容の見学・研修会になりました。

広報・宣伝部会 杉山 光

## 第5期 援農ボランティア養成講座の感想

養成期間：平成20年8月23日～11月1日

第5期 援農ボランティア養成講座が終了し、11月から援農ボランティア活動されている9名の方々の名前と、講座終了したときの、感想・意見を紹介します。

養成講座修了者	居住地区
大西 康之	中峰
川田 悅代	並木
須藤 章	湖北台
豊田 徳良	新木野
中井 康	白山
保々 旭	寿
三宅 輝夫	つくし野
望月 公雄	東我孫子
米澤 外喜夫	白山

50音順、敬称略

### <講座修了者の感想・意見>

実際に農作業を体験でき、その大変さを実感できました。実習先の農家にとっては準備等お世話をかけた事だと思いますが、受講生は共同作業のため、養成、援農の実習を終えて感じたことは、農業とは本当に大変な作業をして、作物を作っているのだと実感した。昔、子どもの頃、お茶碗にご飯粒が残っているのを、よく母親に叱られたものだが、いま身をもって理解ができたような気がする。教育の場でも、食物の大切さ、農業の大変さ、また収穫の喜び、併せて、農業の手助けも出来るような、実習の機会を設けることが出来ないものと思った。

( A さん )

農家の方々の作業を手伝わさせて頂きながら、お邪魔になっていないか取り返しの付かない失敗をしていないか、非常に心配でしたが、作業中でも質問をすれば、必ず丁寧に教えて頂けたので、徐々になれることが出来たと思います。でも、これから実際のボランティアに入ることを考えると、今までのような悠長なペースではいけないと思いますし、かといって雑になつたり、危険なやり方になっては、もっといけないと思います。油断をせず、いつも慎重に、ボランティアに参加させて頂きたく思います。今後ともどうぞよろしくお願ひします。( B さん )

この地にきて3年目、野菜畑は、散歩で見るだけでした。実際に作る方のお話を聞き、トマトのわき芽力キ等をやってみて、野菜を食べるとき、今まで以上に感謝の気持ちがわきました。野菜、イチゴ、花それぞれ商品にするまでには、大変な人手を必要とし、労力の大きさを改めて感じました。ともかく、作物をつくる方に対したいへん尊敬心がわきました。ありがとうございました。( C さん )



短期間でしたが、実際に農作業をさせて頂いて、夏の暑さや腰を曲げての作業など、農家の皆さんのご苦労が少しですが、理解できたような気がしました。特に種まき・栽培・収穫など、私たちに欠かせない食糧の生産に直接携わっておられる農家の皆様には、行政及び市民の理解・援助が必要と考えています。あびこ型「地産地消」推進協議会のもとで、安全・安心・新鮮農産物の「地産地消」を推進されていることに対して敬服するとともに、今後、私も体力の続く限り協力したいと考えています。

( D さん )

援農ボランティア養成講座は、農作業を実際に体験できる貴重な機会であり、我孫子ならではの取り組みだと思います。今後も継続して、一人でも多く援農ボランティアを育成して欲しいと思いました。

( E さん )

各回の作業について、開始前にもう少し詳しく、作物の全体の状況、当該作業の意味などについて話して頂ければ良かった。

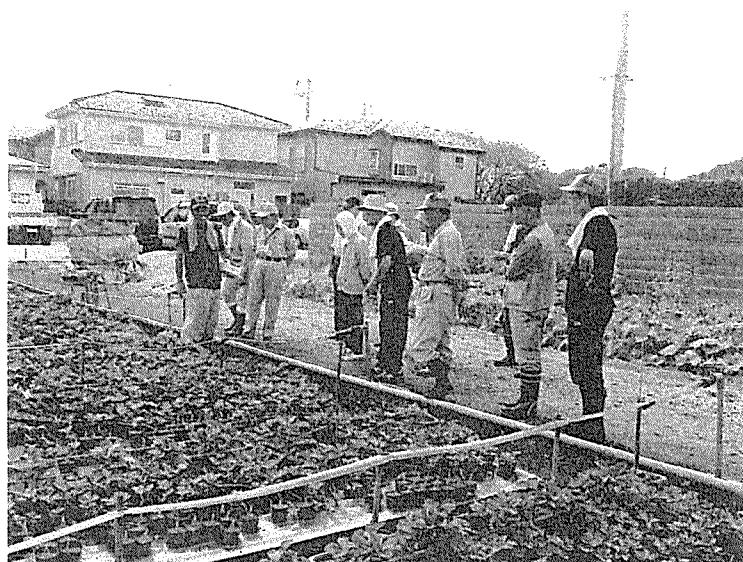
( F さん )

楽しく、苦しさを感じる事なく、作業ができました。農政課並びにボランティア世話人の方々に感謝しています。今後は、春の時期に、このような講習があればと思います。1年間は長いので、2期/年に分けて実施していただけたらと希望します。

( G さん )

自分自身でも野菜作りをやってみたいと思い、本講座を受講しましたが、とても勉強になりました。農業は土作りからの事も良く理解できました。少しづつ学んでいきたいと思いますで、今後ともよろしくお願ひ致します。

( H さん )



農家実習

## 第一回 新規就農講座を開催

あびこ型「地産地消」推進協議会は、我孫子市農政課と共に、昨年の10月18日に「新規就農講座」を開催しました。農業後継者の育成、不耕作地の有効活用「地産地消」の推進が狙いで、講座は30才から60才までの17名が受講しました。

講座の内容は

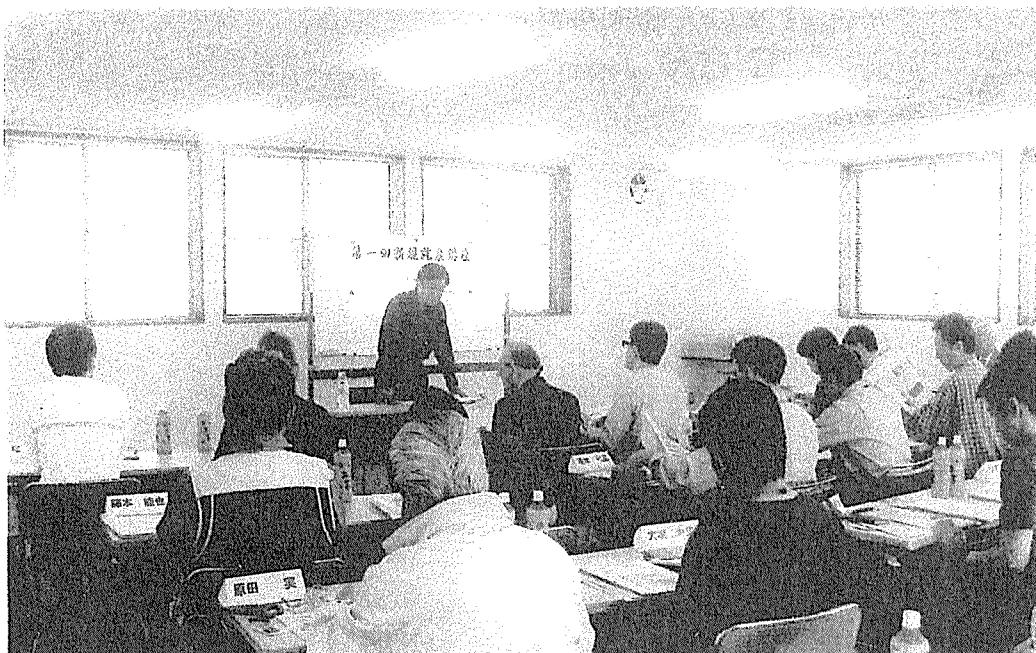
- ① 我孫子市の農業の現状と今後の方向
- ② 就農へのみちすじ
- ③ 農地の取得と貸借(農地法とのかかわり)
- ④ 既就農者の体験発表

講師は当「協議会」の会長、市の農政課の課長、課長補佐、全国農業会議所の新規就農相談センター所長、既就農者の農家が担当しました。(講師は別項に記載)

この中で新規就農相談センター所長は全国の多くの就農相談を経験した立場から、また既就農者の農家は就農14年間の豊富な体験をもとに直接的・具体的に語りました。

受講者からは耕作放棄地の情報提供、有機農業の取り組み、農家認定に必要な耕地面積50アール下限の緩和の必要性などについて多くの質問が出ました。

また、11月29日には農家で現地研修会を開き、併せて就農を目指す受講者には市の農政課と県の農林振興センターが面談し営農計画、技術習得法、資金計画などを協議することとしました。



「就農へのみちすじ」について講義する全国農業会議所  
新規就農相談センター所長の五十嵐 建夫さん

## ☆ 農家研修

上記の計画にもとづき11月29日に受講者11名が予定どおり次の3農家を訪ね実施研修をしました。それぞれの農家が懇切丁寧な説明をし受講者は強い関心を寄せました。また、帰途「あびこ農産物直売所」の見学をし将来の就農後の販売先の確保に心強い確信を得ました。

## ◎ 研修農家(敬称略)

鈴木 順一（抑制トマト） 荒井 茂夫（花卉：スプレイストック）  
鈴木 誠（露地野菜）

## ☆ 個別面談

個別面談希望者の7名についてこれまでに4名が面談を済ませました。新規就農についてはまず農地の取得が50アール以上の規制によるハードルの高さ、また資金の確保、技術の習得など解決すべき困難な課題が多く今後、行政および当「協議会」の支援・協力と就農希望者のみなみならぬ努力の必要性を痛感します。(未面談者3名については今年1月におこなう予定)

## 注：新規就農講座の講師(敬称略)

遠藤 織太郎	あびこ型「地産地消」推進協議会会長
大井 猛雄	我孫子市環境経済部次長(兼)農政課長
五十嵐 建夫	全国農業会議所全国新規就農相談センター所長
徳本 博文	我孫子市環境経済部農政課 課長補佐
高田 幸雄	我孫子市農業青壯年会議会長

新規就農部会 森園 幸二郎



トマトの接木苗の生産について説明する鈴木 順一さん



## 新年餅つき大会

1月17日(土)10時～14時 あびこ農産物直売所で開催されました

主催 あびこ型「地産地消」推進協議会 電話:04-7128-7770

共催 我孫子市・我孫子市あゆみの郷公社・我孫子市農産物直売所出荷組合

### — 子供たちの餅つきと試食コーナー

よく捏ねって、お餅つき、杵もつ姿が誇らしい。お餅は丸めて試食しました。



### — 食育のクイズとお米のお話コーナー

新作の手作りパネルで、お米がテーマのお話「お米を食べて田んぼを守ろう！」です。お米を食べて、自然環境を守りましょう。



パネルシアターの実演



食育クイズ

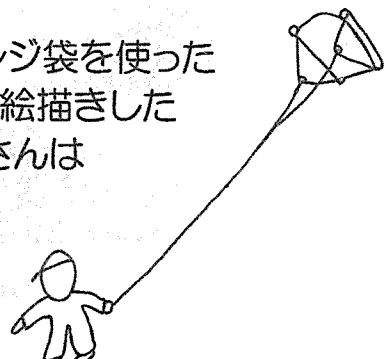


説明パネル

### — 子供たちの凧づくりなど遊びコーナー



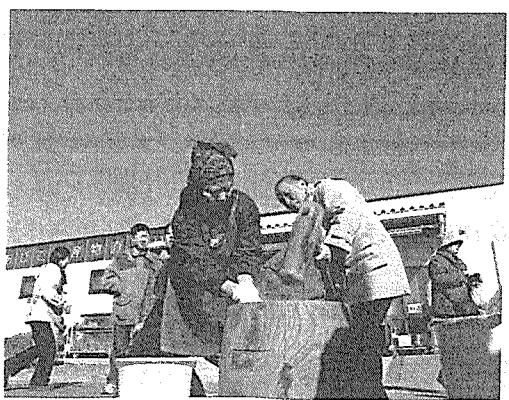
渡辺さんの指導で、レジ袋を使った  
凧作りをしました。お絵描きした  
凧が揚がると、子供さんは  
大喜びしました。



—餅つき実演販売(餅つきの体験もできます)—



心をこめてお餅をかえす



今年も力が入ります

—地元農家による手作り加工品の販売—

「かあちゃんのかまど」のハタのあるテントで、玄米餅、米粉マフィン、米粉チーズケーキ、シナモンポテト、漬物、味噌などが、沢山ならべられ好評です。



テント脇で、もち玄米炊き



お雑煮を準備してます

人形型の綿あめ機から楽しいメロディが流れます♪子どもの行列ができています。



ダイコンマンが綿あめ作り

お疲れ様でした！

出荷組合、あゆみの郷公社、農政課、当「協議会」ボランティアの方々の準備により、とても楽しいイベントになりました。来場者は約千人でした。

撮影、記事 広報・宣伝部会

## 生産者基準評価委員会 Q&Aコーナー（その18）

(Q 23)

宮崎県綾町では、自然生態系農業に町ぐるみで取り組み、エコ農産物の認証を進める中で、エコが「町興し」の一環として定着しているそうですが、その認証の仕組みなどはどのようなものなのでしょうか。

(A)

綾町における有機農業の取り組みは、30年前(1978)になるが、現在の認証制度が確立されたのは「綾町自然生態系農業の推進に関する条例の制定(1988)からです。この条例の基本的考え方は次の3点に見ることができます。

- ① 化学肥料、農薬などの合成化学物質の利用を排除すること。
- ② 本来機能すべき土などの自然生態系を取り戻すこと。
- ③ 食の安全と健康保持、遺伝毒性を除去する農法を推進すること。

綾町におけるエコ農産物の認証は、この理念に基づいて実施されています。具体的には、生産農家が提出した栽培履歴(トレサビリティ)に基づいて、有機農業開発センター審査員が評価基準に照らして判定し、その農作物はA(ゴールド)、B(シルバー)、C(カッパー)の3種に判定されます。この場合、

A(金)は土づくり3年以上で、除草剤や農薬、化学肥料を使わないこと。

B(銀)は土づくり2年以上で、除草剤は使わず、農薬は慣行の20%以下、化学肥料は3要素施用成分量20%以下であること。

C(銅)は土づくり1年以上で、除草剤は使わないので、農薬は慣行の1/3以下、化学肥料は3要素施用成分量20%以下のものとなっています。

これらは大変厳しい評価基準といえよう。

この判定結果は綾町の、ほんものセンター(農産物直売所)に伝送され、出荷農産物に貼るバーコードの中に打ち込まれます。出荷農家はこの評価判定された印字の打ち込まれたバーコードを取り出し、出荷する農産物に貼付するだけですので、このシステムを歓迎し、普及をみています。

一方消費者も安全・安心の選択肢が広がり、自由に選ぶことができる所以、このシステムを歓迎しています。

今や綾町以外の消費者もリピーターとなり、たった7千人の町で年間売り上げ高は4億円近くにもなっており、そのうちエコ野菜だけでも半分近くの売り上げとなっているとのことです。

生産基準評価委員会 遠藤 織太郎

## 対外イベントの お知らせ

当「協議会」の参加する対外イベントを紹介します。会員、関係者の参加協力、ご支援をいただきたく、ご案内致します。

### ★ 第33回我孫子市 消費生活展

日時:平成21年2月14日(土)・15日(日)午前10時30分～午後4時30分

場所:あびこ市民プラザ(あびこショッピングプラザ内3階)

主催:我孫子市・我孫子市消費生活展実行委員会

#### 《メインテーマ》

あなたのエコが地球を救う ～すぐ始めよう 孫・子のために～

《生活の安全・安心(食や環境問題)をご一緒に考えましょう》

◎ 当「協議会」のテーマ:フード・マイレージ 〇(ゼロ)の我孫子産。

当「協議会」のパネル展示と資料配布をおこないます。

◎ 「あびこ農産物直売所」より地元野菜を納品します(アソケト回答の記念品)。

連絡先:商工観光課 消費指導担当 電話7185-1469

### ★ 講演「生産者と消費者がともに作り出す～国内資源を生かした食を～」

農業ジャーナリスト 榊田 みどり氏

“東葛飾で食育を進めよう！” 地域における活動の報告など..

日時:平成21年2月26日(木)午後1時30分～4時 (イトヨーカドー向かい)

場所:千葉県福祉ふれあいプラザ(けやきプラザ2階・ふれあいホール)

主催:とうかつ千産千消ネットワーク、千葉県東葛飾農林振興センター

◎ 当「協議会」のパネル展示と資料配布をおこないます。

連絡先:東葛飾農林振興センター振興普及部 電話04-7162-6151

### ★ 市民活動フェア in あびこ2009

日時:平成21年2月28日(土)・3月1日(日)「市民活動フェア」

場所:アビ스타、けやきプラザ、湖北地区公民館(3会場)

主催:市民活動フェア in あびこ2009実行委員会

テーマ ~世代をこえて♪ボランシカ~

◎ アビ스타1階ホールの、まちづくり分科会コーナーで当「協議会」のパネル展示と資料配布をおこないます。

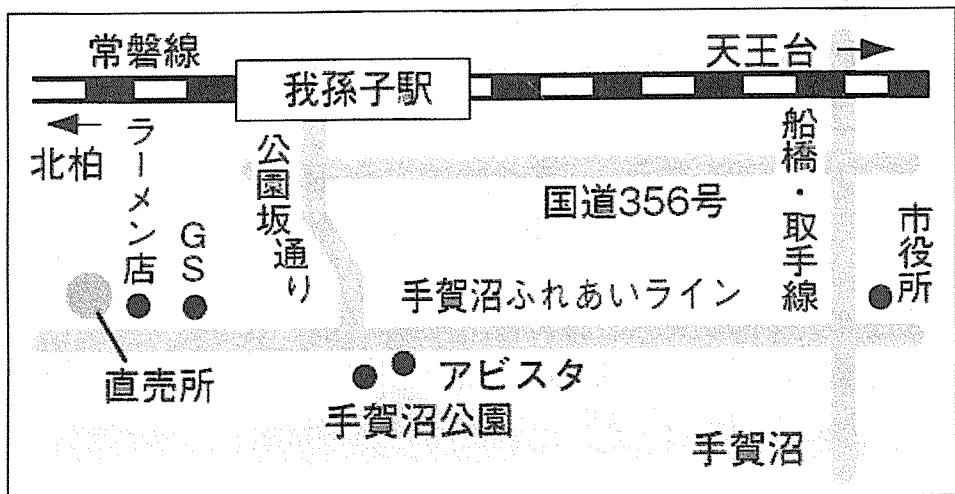
◎ 「あびこ農産物直売所」がアビ스타脇で地元野菜の即売会をおこないます。

連絡先:市民活動支援課 電話 04-7185-1467

注「ボランシカ」とは、ボランティア(ボラン)・市民活動(シミンカツどう)の略語で、我孫子市社会福祉協議会がつくった造語です。

## お知らせ

「あびこ農産物直売所」の宣伝PRに協力しましょう。  
本格農業拠点施設「あびこ農産物直売所」の予定どおりの設立を願っています。



### 編集後記

大寒を迎え、皆様いかがお過ごしでしょうか。  
昨年は第5期援農ボランティア養成講座があり、  
新規就農講座も開催されました。今年は新年餅  
つき大会で始まりました。新春にあたり諸活動  
を活発にし、お互いに励みたいと存じます。

杉山 記

2009.1.27-400